

# ブラックバスとコイのお話

井口 卓磨

ブラックバスは有名な北米の外来魚です。日本各地に生息し、様々な在来魚を捕食しています。コイは東アジアや日本に生息する魚で、日本各地に生息しています。白子川でもよく見られます。日本では、ブラックバスは悪で、コイは良い魚というイメージを持っている人がたくさんいます。



しかしそれは本当でしょうか。ブラックバスもコイも共に世界の侵略的外来種ワースト 100 に選ばれています。共に世界的な影響力がある魚です。

ここで日本ではなくアメリカの話をしたと思います。アメリカではブラックバスは在来種になります。アメリカではコイの被害によりブラックバスが減ったという研究結果も出ています。そしてブラックバスが保護されています。確かに日本人からすればブラックバスは悪であるという考えが強いですが、アメリカ人からすればコイが悪なのです。そして白子川も含めて日本のほとんどの川にいるコイは外来種だそうです。錦鯉などが最もわかりやすい例です。在来のコイは体が細いそうで琵琶湖の一部にしかいないそうです。日本でも徐々にコイもブラックバスも放流禁止という場所、看板が増えています。

白子川のコイも多くは放流のようです。コイが生態系に影響をもたらすことを今一度別の視点で見してみるのも面白いと感じました。（立教新座高校 3年）

11月

## ■ 青少年育成地区委員会の 「まちたんけん」

11月5日（日）に、青少年育成大泉西地区委員会の親子100名が、「親子まちたんけん」で源流の親水公園（井頭池）を訪れました。西地区とは西大泉と南大泉です。子どもの数が少なかったのがちょっとさびしかったです。



秋色濃い11月26日（日）の定例活動日に、練馬みどりのまちづくりセンター主催「景観ウォッチング“保谷駅界わい編”」の50名が、15分ほど源流の井頭池を訪れました。ある参加者の感想が印象的でした—「…川は、生きものや人が集えることで、とても生き生きとした表情になりますね。子どもの頃から、身近に生きものと共存できる川があると、その後の人生観も変わるような気がします。」

## ■ 大泉学園中学校の校外学習

11月10日（金）、大泉学園中学の1年生3班30名が、校外学習の一環として井頭池を訪れました。去年までは小学6年生だったからか？私の説明よりも「護岸登り」のほうが楽しそうで、女子が笑って見ている中、男子は次々と競って登っては落ちたりしていました。私は思いました、中学生にとってここが「親水」でも「親岸」でもいい、楽しければ、と。

## ■ 景観ウォッチングのコース

担当：菅沢 博